



もっと

# みなみおおさか

社会医療法人 景岳会 南大阪病院

2024年 新年号  
VOL.78

地域からよろこばれ、信頼される病院をめざします。

- ◆ 新年のご挨拶
- ◆ 食道裂孔ヘルニアの大きさと症状の程度について
- ◆ 看護部だより
- ◆ 糖尿病の運動療法
- ◆ お薬手帳をつがっていますか？
- ◆ 手術支援ロボット「ダヴィンチ」ついに導入へ
- ◆ 職員リレーコラム



## 令和6年 新年のご挨拶



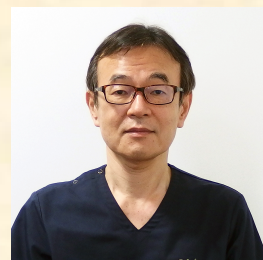
社会医療法人 景岳会  
理事長 柿本 祥太郎

皆様新年明けましておめでとうございます。  
今年も南大阪病院をどうぞよろしくお願い申し上げます。  
さて昨年まで約4年にわたって猛威をふるった新型コロナウイルス感染症もようやく落ち着き、私たちの生活ももとの戻ってきました。  
現在は散発的に感染患者さんを見るのみで、クラスターのような集団発生もなく、あれだけ恐れられたのが嘘のような状況です。旅行や飲食の需要も回復し、閑散としていた観光地も多くの観光客でにぎわっているようです。先日久しぶりに難波界限に出かけましたが人手の多さ、なかでも外国人の多さには驚かされました。

今回の新型コロナウイルス感染症への対応は病院としても初めての経験でしたが、全職員の協力のもと、積極的に対応し多くの患者さんの治療にあたってきました。その中で今まで足りなかった点や多くの知見を得ることができ、初動の混乱への反省とともに今後の新たな感染症対策に生かすことができそうです。  
また当院は地域の中核病院としてさらに地域医療に貢献するべく、今年にはロボット手術を導入いたします。昨年秋から準備をすすめ、今年1月に第1例目の手術を予定しています。2000年から導入され始めたロボット手術は日本でも急速に普及しつつあり、手術適応も拡大しています。当院も外科や泌尿器科を中心に積極的に活用していく方針です。

当院はこのように急性期医療にさらに注力するとともに、地域包括ケア病棟や回復期リハビリ病棟の運用を通して急性期から在宅復帰への支援体制を整え、皆様の地域での生活を支えてまいります。  
日本は世界でも例のないスピードで少子高齢化が進んでおり、人口減少社会に突入しています。コロナ禍を经过しているいろいろな職種で人手不足が顕著に表れてきました。医療においても多くの職種で人手不足は問題になってきており、特に介護分野では人材不足が顕著で、今後見込まれる介護の必要な高齢者の増大に対応できなくなっています。  
コロナ後の先の見えない状況ですが、当院は地域の中核病院として診療所の先生方や介護、福祉施設と連携し地域医療に貢献していく所存ですので今年もよろしくお願い申し上げます。

## 2024年のご挨拶



南大阪病院 院長  
福田 隆

明けましておめでとうございます。  
2024年も皆様方にとって幸多き1年になりますようお祈り申し上げます。  
当院はその理念である「地域からよろこばれ、信頼される病院」を目指し、基本方針の一つである「常に研鑽につとめ、安心、安全で質の高い医療を提供する」ために、今年も邁進してまいります。そのための2024年最大のプロジェクトが、最先端の医療技術であるロボット支援手術の導入です。

ロボット支援手術とは、立体拡大視可能な3Dハイビジョンシステムの下に、人間の手よりはるかに可動域が広く精緻な動きが可能な機械（ロボット）を遠隔操作して行う手術です。これまでの手術の歴史を一変させた画期的なシステムです。1999年にアメリカで手術支援ロボットの初代ダヴィンチが販売されて以来世界中に普及しており、当院では第4世代の最新鋭機ダヴィンチXiを導入しました。  
ロボット支援手術には、1.傷口が小さい、2.術中の出血が少ない、3.機能の温存が向上、4.術後の疼痛が少なく回復も早い、5.術後合併症のリスクが低い、6.正確な患部の切除、等多くのメリットがあります。安全で合併症が少なく早期の社会復帰が可能な、患者さんに優しい低侵襲手術です。最も適切な治療を必要とされる患者さんに提供するため、当院では泌尿器科および消化器外科にてロボット支援手術を開始します。

またコロナ禍で長年中断していた市民公開講座も、今年から再開します。最新の医療トピックスを専門医が一般の方々に分かりやすく解説します。2月から隔月で当院多目的ホールにて開催しますので、多くの方々のご参加をお待ちしています。自らの健康は自らの力で守って行く必要があります、そのためにも多くの医学知識を得ることは大変有益です。地域の方々の健康増進のために、病院から「健康と元気」を発信して行きたいと思えます。

開業医の先生方のかかりつけ医機能が益々重要視され制度整備も進む中で、病院との機能分化と連携がより重要となって来ます。当院でも院内の登録医紹介スペースを刷新して先生方の紹介パンフレットを常備し、一部検査予約は登録医の先生からはオンラインで可能となるシステムも導入予定です。近医の先生方からの紹介と逆紹介を強化し、より緊密な地域連携を目指したいと考えています。  
急性期医療の充実と地域連携の強化、その2つを車の両輪として、南大阪病院は今後も進んでまいります。今年も皆様方からのご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

# 食道裂孔ヘルニアの大きさと症状の程度について



内視鏡外科 副院長  
竹村 雅至

通常は病気の進行度や程度とそれに伴う様々な症状の程度には相関が見られることが多く、病気の進行により症状が悪化していきます。しかし、食道裂孔ヘルニアは非常に特殊な病気で、その大きさ（程度）と症状が一致しない方が多くおられます。食道裂孔ヘルニアは内視鏡を施行した方の約半数に認めるといふ多い疾患で、I型（滑脱型）からIV型（複雑型）まで、4型に分類されています。このうち、I型の小さな食道裂孔ヘルニアは最も多く食道裂孔ヘルニアの90%以上を占めるとされており、IV型は非常にまれです。食道裂孔ヘルニアという病気の中ではI型（滑脱型）は非常に小さく軽度のものであり、比較的若い男性によく見られます。I型食道裂孔ヘルニアは症状が全くなく無症状で経過される方から高度の逆流性食道炎を呈している方まで様々です。逆流性食道炎が高度の場合には、胃酸を抑える薬を服用することで症状が良くなる方があります。

## 食道裂孔ヘルニアの大きさと症状の関係



I 型

食道胃接合部

- 軽度の食道裂孔ヘルニア
- 逆流性食道炎・呑酸・夜間の逆流
- 症状が強い方も多い
- 胃酸を抑制する薬で症状が改善する方も多いが、夜間の逆流のコントロールは難しく、不眠になる方もある

III 型

IV 型

食道胃接合部

大腸

- 大きい食道裂孔ヘルニア
- 胸部不快感・嘔吐
- 薬で症状が改善しない方が多い
- 嘔吐から誤嚥性肺炎をきたす方がおられる（特に高齢者）

また、内視鏡検査で逆流性食道炎の程度は軽度であっても、胸部不快感や喉の違和感、夜間に口まで逆流してくるなどの症状が非常に強い方が存在することも特徴です。内視鏡検査だけを見ると、食道裂孔ヘルニアの程度が極軽度であるため、かかりつけの医師からは「問題ありません」や「非常に軽度の食道裂孔ヘルニア」などと説明があり、症状の強さと一致しないため、このギャップに悩まれる方も比較的多い特殊な病態です。

一方、III型・IV型の大きな食道裂孔ヘルニアを持つ方は高齢の女性が多く、胸部不快感や嘔吐がよく見られる症状で、逆流性食道炎による症状は比較的軽度な方が多いのが特徴です。さら

に、ご高齢の方では嘔吐から誤嚥性肺炎を生じる方もおられます。この胸部不快感や嘔吐は薬で改善しない方が多いことが特徴です。薬による治療を行っても改善しない方に対する治療法として、外科的治療が行われるようになってきています。

その一方で、食道裂孔ヘルニアに対する外科的治療は海外では非常に多く行われている消化器外科手術ですが、日本では専門に行っている施設は非常に少数です。これは、日本ではこれまで様々ながんに対する外科的治療が優先され、がん以外の疾患に対する外科的治療が積極的には行われてこなかったという経緯があります。

しかし、最近では良性的な病気でもそれにより長く症状に悩まれておられる方に対する外科的治療が、生活を改善・向上させ得る手術として注目されています。

当院では2017年より食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡手術を導入し、食道裂孔ヘルニアに伴う様々な症状を改善する手術として、積極的に行ってきました。

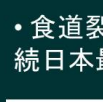
現在では年間手術件数が日本最多となり、これまで250例を超える方に手術を適応してきました。手術件数が増えることで、手術術式への習熟が進み、安全に安定して行えるようになっています。2019年以降2021年まで3年連続日本最多の手術件数となっていますが、今後とも安全に手術を行うことを優先し、食道裂孔ヘルニアに対する手術を行っていきたいと考えております。

## 当院外科の食道裂孔ヘルニア関連記事抜粋

• 食道裂孔ヘルニアに対する手術の効果と目的について



• ご高齢の方の嘔吐と胸の不快感の原因としての食道裂孔ヘルニアについて



• 食道裂孔ヘルニアの手術件数が3年連続日本最多になりました



• 夜間に苦いものが口まであがってくる胃液が逆流してくる症状について



# 2023年度大規模災害訓練

看護部だより



2023年10月28日土曜日、秋風が冷たく感じるなか、地震発生を想定した大規模災害訓練を行いました。ここ4年間はコロナ禍のため規模を縮小して行っていましたが、今年は大阪市中央区にマグニチュード7.4（震度6強）の激震規模の地震発生を想定し、訓練を行いました。住之江区医師会と住之江区の病院参加もあり、災害本部の立ち上げや、多数搬送されてくる患者のトリアージ訓練を実施しました。



災害本部の立ち上げは4年ぶり、各部署からの被害状況の報告を受け、患者受け入れや地域の中核病院としての役割を果たすべく訓練を行いました。災害本部の参加者からは、「防災シミュレーションは大切であり、今回の訓練で課題もみえた。」「スタッフも変わるため、定期的に行うことで有事の際の意識が高まる。」と感想がありました。

トリアージエリアでは、看護師が患者役となり、リハビリテーション科が患者搬送、医師会の先生方と看護師が、設営されたテントの下でトリアージを行いました。トリアージや患者搬送担当者は、「実際の災害時は慌ててどう行動していいかわからなくなると思われるので、訓練を行い少しでも落ち着いて行動できるようにしたい。」また、患者役の看護師からは、「寒さの中診察を待つことのでつらさ、スタッフの気遣いのうれしさなどを体験することでわかり、災害時に医療スタッフとしてどう行動するべきかを考える機会になりました。」との感想がありました。



南大阪病院防火・防災委員会は、地域の災害医療の中核としての役割を果たすため、当院並びに地域における災害医療の現状を把握し、それに基づき災害医療体制を整備することを目的として活動しています。また、毎月の会議のなかで、防災に関する勉強会や今後起こりうる災害を想定した訓練など、患者・職員を守るための備えを行っています。大規模災害訓練に先駆け、6月には水消火器をつかった実際の放射方法や、布担架を使った患者搬送、散水栓の放水など、火災想定の実践訓練も行い、80名が参加しました。

今後も様々な災害に対する準備・訓練を行い、有事の際には地域の災害医療の中心となって活動できるよう努めてまいります。

防火・防災小委員会  
看護師 林さゆり



## 糖尿病の運動療法

糖尿病とは血液に含まれるブドウ糖（血糖）の量を示す“血糖値”が基準値よりも高いことを意味し、高血糖が慢性に持続する病気を糖尿病といいます。高血糖の状態が長く続くと、糖尿病だけではなく眼の失明などの糖尿病網膜症、足の攣りや足を触っても感覚がわからなくなるなどの糖尿病性神経障害、腎不全などの糖尿病性腎症、心筋梗塞、脳梗塞、足壊疽（えそ）、認知症などのさまざまな病気の原因になります。

糖尿病の治療は食事療法、運動療法、薬物療法の3本柱があります。そのひとつの糖尿病の運動療法は、運動により使われた筋が糖や遊離脂肪酸の利用を促進させるため、血糖コントロールの改善、インスリン感受性の増加、脂質代謝の改善、血圧低下、心肺機能の改善が得られ糖尿病の改善を促します。さらに、有酸素運動により内臓の脂肪細胞が小さくなり肥満を改善して脂肪組織から産生されるアディポサイトカインなどのインスリンの働きを妨害因子の分泌が少なくなります。このため、筋肉や肝臓の糖の処理能力が改善し血糖値が安定します。運動療法は、週に合せて150分かつ週3回以上で会話ができる範囲内の自覚的運動強度として「楽である」から「ややきつい」での有酸素運動を行うことが勧められています。このように有酸素運動を行う際には、15~30分程度運動を行うことが推奨されていますが、1日の中で合計30分を10分、10分、10分といった分散した運動でも効果的です。

### 運動が苦手な方へ、日常生活の中で運動しよう



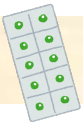
運動療法の効果を高めるためには、日常生活活動によるエネルギー消費（以後 NEAT：Non-exercise Activity Thermogenesis という）を増やすことが必要とされています。身体活動は、運動と生活活動に分けることができ、NEATは運動以外の身体活動で消費されるエネルギーのことをいいます。身体活動での運動とは、体力向上のためにダイエットなどを目的として行われる活動のことで、具体的にはウォーキング、体操、水泳、ゴルフなどがあげられます。身体活動の生活活動とは、日常生活の中で行う運動以外の活動のことであり、仕事や洗濯、掃除、買い物、通勤や買い物ための移動で行う歩行や階段昇降などがあげられます。最近のNEATに関する研究では、NEATが死亡率や脳梗塞、糖尿病などのリスクファクターであることが明らかになりました。疫学研究でも糖尿病患者のNEATが少ないことや、健常者のNEATが食後血糖値と関係があることが報告されています。NEATを増やすためには、移動時にエレベータやエスカレータを使うのではなく意識して階段の昇り降りをしたり、通勤時などに1駅分歩いたり、寝転ぶ時間や座る時間を減らすことや腹式呼吸を行ったり、姿勢を伸ばすことが有効です。

当院では糖尿病患者会である「かがやき会」が毎月第3土曜日に活動しています。かがやき会ではNEATの増加のために役立つウォークラリーを年に2回開催しています。さらに、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士による講演を月替わりで開催しています。このような講演やウォークラリーの参加にはかがやき会への入会が必要ですので、ご興味のある方は入会の申込みをされてはいかがでしょうか。

（文責：リハビリテーション科 松原俊男 山川智之）







## お薬手帳をつかっていますか？



受診した時、医師や薬剤師から「今日はお薬手帳をお持ちですか？」と聞かれた経験はありませんか？お薬手帳を持って行くのが面倒くさいという方や、自分で薬のことを分かっているのにお薬手帳って必要なの？と思う方もいらっしゃるかもしれません。

お薬手帳は、どの医療機関で、いつ、どのような薬をもらったのか、どのくらいの期間服用したのが記録するものになります。他にも、お薬手帳にはアレルギー歴、副作用歴、既往歴などの情報を記載することができます。お薬の名前や成分まで正しく覚えるのは難しいことです。特に、以前服用したお薬でアレルギー症状や副作用が出た場合に、その情報を正確に医療機関で伝える事は安全に治療を行うためにとても大切なことです。

例えば、「以前、風邪薬を服用して体に湿疹が出たことがあります。」と医療機関で伝えたとします。しかし、それだけでは情報不足となってしまうことがあります。「風邪薬」という情報だけでは、それは抗生剤だったのか、解熱鎮痛剤だったのか、湿疹を誘発させたと考えられる成分は何か推測することが困難だからです。

そこで役立つのがお薬手帳です。服用したお薬でアレルギー症状や副作用が出た時、飲んでいたお薬の情報や、その時に現れた症状をお薬手帳に記載していれば、具体的にどのお薬が原因となった可能性が高いか推測することが可能です。

また、お薬手帳は災害時に迅速な医療を受けるための重要な情報源となります。災害が起きれば遠方へ避難することになったり、医療スタッフも短期間で交代することが考えられ、避難所などで医療支援を行う医師や薬剤師は、患者様がどんな持病を持っているのか、普段どんな薬を飲んでいるのか、一切分からない状態で診療やお薬の提供をすることになる可能性があるからです。実際に東日本大震災や熊本地震では、お薬手帳の活用により、早くかつ適切に医薬品が供給され、医療が提供される場合が多く見受けられ、お薬手帳の有用性が改めて認識されました。現在はお薬情報をスマートフォンで確認できるアプリもあります。

前に「風邪薬」を飲んで湿疹が出たことがあるのよ

お薬の名前は分かりませんか？



「風邪薬」と言っても…  
抗生剤？解熱鎮痛剤？  
成分は何だろう？



薬剤師はお薬の調剤だけでなく、患者様一人一人が使用している全てのお薬の情報を正しく把握し、飲み合わせや用量に問題がないかをチェックし、安全性の判断を行っています。調剤したあとも「薬を正しく服用しているか」「副作用が出ていないか」などを確認することも業務の一つです。お薬でのアレルギー症状や副作用歴についても医師に情報提供を行っており、再度同じお薬が処方された際は確認を行っています。

当院では患者様に重大な副作用が起きたり、症状が悪化するのを防ぐため、投与すべきではない薬剤についての情報を電子カルテに登録するシステムがあります。このシステムが導入されたことで、患者様へより安全にお薬の提供ができるようになりました。

災害時に備え、いつも安全な医療を受けるためにも、お薬手帳を活用し、医療機関を受診する際はお薬手帳をご持参ください。





# 手術支援ロボット ダヴィンチついに導入へ

本年9月30日(土曜日)午前9時、トラックが救急外来横に到着し、荷下ろし作業が始まりました。ついに当院へ手術支援ロボットダヴィンチ Xi の搬入です。住之江区では初めての導入になります。



ダヴィンチは大きな段ボール箱に包まれており、丁寧に荷台から下ろされてその姿を現しました。段ボールを解かれ姿を現した後に、足元に注意しながら新しい住处となる当院4階の手術室へ収まりました。搬入時にはコンパクトに見えたのですが、手術室に入ると非常に大きく見え迫力があります。当院では手術室のうち1室をダヴィンチ用に作り替え、手術室に収まった後に接続動作確認を行い搬入作業は終了しました。



これで、ダヴィンチ手術が開始できる体制は整ったのですが、すぐに手術開始とはなりません。当院では外科・泌尿器科がダヴィンチ手術を行う予定ですが、実際に患者さんの手術を安全に行うためには、執刀医・看護師・臨床工学技士のトレーニングが必要であり、これに3ヶ月程度は要します。当院では2024年1月の手術開始に向けてトレーニングを進めております。



## ☕ 職員の'あんなコトこんなコト'をリレーで綴る

## 職員リレーコラム

はじめまして。南大阪病院 薬剤部の竹田智由希と申します。  
昨年当院に転職し、今年で薬剤師3年目になります。  
職員リレーコラムと言うことで今回は私の趣味について語らせて頂きます。



私の趣味は幼馴染である友人と旅行に行くことです。年に1回は必ずと言っていい程、お互いの都合を合わせて旅行の計画を立てています。主に日本国内が多いですが、4年前には台湾出身の友人案内のもと、3人で台湾の2泊3日旅行に行きました。

台湾旅行の際、『千と千尋の神隠し』の舞台になったと言われる台湾北部にある九分に訪れた時、独特な雰囲気を持ったレトロな街並みはまるで映画からそのまま出てきたような風景でとても魅力的でした。また、台北から電車で約1時間の所にある十分では願い事をランタン(天燈)に書いて空に飛ばすと願いが叶うという言い伝えがあり、天燈の色によって仕事運、健康運、金運など分かれていましたが、私は薬剤師になると書いたところ有難いことに願いが叶いました。(笑)街も真ん中に電車が通っていて、その両側には土産店や飲食店が並んでおり、電車の通りすぎるタイミングを見計らって線路の上で天燈を飛ばす光景はとても神秘的でした。



国内旅行で最も印象的だったのが北海道と金沢への旅行です。北海道には昨年の夏に2泊3日で札幌と小樽に行き、北海道グルメを堪能し観光名所をたくさん巡りました。その中でも食事の最後を締めくくる札幌発祥の『締めパフェ』は見栄えだけでなく、味もとても美味しく感動的でした。また金沢では、近江市場にある回転寿司を訪れた時、北陸の新鮮なお魚のクオリティに驚きつつ、城下町であるひがし茶屋街の風景に癒されました。



旅先の文化や遺産への興味、知らない土地での発見や出会いが楽しくて満足な旅行でした。





## 南大阪病院の理念

地域からよろこばれ、信頼される病院をめざします。

### 基本方針

- 1、患者様の意思と権利を尊重し、十分な説明と納得と根拠に基づく医療を提供します。
- 2、常に研鑽につとめ、安心、安全で質の高い医療を提供します。
- 3、地域の中核病院として、他の医療機関との密接な連携をはかります。
- 4、医療を通じて、社会貢献と職員の満足をはかるべく健全な財務体質を構築します。

## 看護部の理念

地域医療の中心的病院としての使命と役割を自覚し、地域の皆様と社会のニーズに対応できる看護を実践します。

### 基本方針

- 1、患者様の命の尊厳と人権を尊重します。
- 2、安全で質の高い看護を実践します。

### 目標

- 1、説明と納得に基づく患者様中心の看護を実践します。
- 2、知識と技術を磨き、豊かな人間性を有する看護職を育成します。
- 3、経営への参画意識を高め、効率的な看護業務を遂行します。
- 4、職員満足度が高まるよう、職場環境の充実に図ります。

## 患者様の権利と義務

患者様の権利を尊重し、インフォームドコンセント（十分な説明と納得）と自己決定権を大切にされた患者様本位の医療を提供していくために、当院とひとりひとりの患者様は、以下のことを確認し合います。

- 患者様は、人間としての尊厳を尊重されながら医療を受けることができます。
- 患者様の医療上の個人的な秘密は守られます。
- 患者様は治療、看護の内容及び病状経過などについて、十分な説明と必要な情報の提供を受け納得のうえ自分の意思で医療を選ぶことができます。
- 患者様は研究途上にある医療を受ける場合、前もって十分な説明がおこなわれます。
- 患者様はお互いの療養環境を守るために、定められた諸規則を守る義務があります。



## 社会医療法人 景岳会 南大阪病院

〒559-0012  
大阪市住之江区東加賀屋1-18-18  
TEL 06-6685-0221 (代)  
FAX 06-6685-5208  
URL <http://www.minamiosaka.com/>

### 受付時間

平日 午前 08:30~12:00  
午後 12:00~16:00  
土曜日 午前 08:30~12:00  
日曜日・祝日 休診

※曜日によって診療内容・時間が変わりますので、詳しくは窓口および外来担当までご確認ください。

季刊誌：「もっとみなみおおさか」 第78号 2024年1月1日発行  
発行所：社会医療法人 景岳会 南大阪病院

南大阪病院  
ホームページ



QRコード



日本医療機能評価機構  
認定第JC477号

